

2025 年も早くも折り返しの月となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

私はこの 6 月、子どもたちの強さにあらためて気づかされる機会がありました。私たち大人があれこれと思い悩む中でも、子どもたちは自分なりのペースでしっかりと前を向いて日々を生きているのだと。そんな子ども達に寄り添った医療を、これからも届けていかなければと感じた次第です。

さて、今回の小児科通信では、小児科病棟の行事、医局員の先生方の学会参加報告などを掲載しています。ぜひ、ご覧になってください。

～5 月・6 月の医局行事報告

5 月 血友病センター担当セミナー

血友病センターから「当院の血友病センター41 年目の院内・院外診療連携」というテーマでセミナーが行われました。

1984 年に産業医科大学で血友病センターが開設され、血友病包括診療のための総合外来をはじめ昨年で 40 周年を迎えました。2020 年代に入って、包括外来を始める施設も増えており、当院は全国にさがかけて包括診療を行っているモデルケースの 1 つであり、アップデートを行いながら包括診療を続けるとともに日本全国に向けて情報提供を行っています。そんな血友病センターより、実際にどのように包括医療を行っているかを解説していただきました。

6 月 第 529 回小児科学会福岡地方会

福大メディカルホールで開催されました。山口 結希先生が「神経膠腫との鑑別を要した脳内出血の 1 例」、高橋 光先生が「当院における systemic lupus erythema tosus: SLE 母体から出生した早産児の臨床的特徴」を発表し、永汐 孟先生が座長をされました。

質疑応答も盛り上がり、有意義な発表になりました。



発表の緊張から解き放たれた
高橋先生★

6月 新生児グループのクリニカル・カンファレンス

新生児グループから「稀な疾患だが危急疾患である小腸捻転症はどうすれば早く気付ける？～診断へのアプローチ～」というテーマでクリニカル・カンファレンスが行われました。

小腸捻転症は急速に腸管虚血に進展することがあり、腸管の壊死や穿孔への進行を防ぐためには早期診断が重要です。過去に報告されている小腸捻転症例の身体所見および検査所見から、小腸捻転の早期診断のポイントを検討しました。

6月 内分泌・代謝グループのセミナー

内分泌・代謝グループから「小児における電解質異常とけいれん：基本から学ぶメカニズムと対応」というテーマで行われました。小児のけいれん発作は、電解質異常や血糖異常が原因となることもあり、背景を的確に見極める力が求められます。これらの異常における生理学的背景と、けいれんを引き起こすメカニズムを解説し、臨床現場で遭遇する実症例をもとに、どのような場面で異常を疑い、どの検査を優先すべきかを解説しました。

～小児科病棟でのイベント～

6月 小児科病棟にクラウンシロップさんが来てくれました！

小児がん経験者の道化師 クラウンシロップさんは、毎年小児科病棟に来棟され、病気と闘う子どもたちに希望と笑顔を届けてくれています。

今回も、バルーンアートや皿回し、マジックなどを披露していただき、子どもたちの心をつかんでくれました。いつもありがとうございます。



～院外でのイベント報告～

2025年6月8日(日)に、福岡市天神のFFGホールにて、全国小児がんチャリティーコンサートが開催されました。本コンサートは、一般社団法人 旭くん光のプロジェクトが主催、日本小児がん研究グループ(JCCG)が後援しています。

コンサートは、「101回目のプロポーズ」で知られるピアニスト、作曲家の西村由紀江氏の心地よいピアノ旋律から始まり、全日本合唱コンクール全国大会に3年連続出場している北九州市立日明小学校合唱部による元気良い合唱や、小児がんのお子さんをもつお母様によるフルート演奏など、盛りだくさんの内容でした。当科の水城和義先生も登壇され、ご自身の経験を交えて、小児がんについてわかりやすく説明されていました。



～7月の医局内イベント～

学生さんの中には、小児科通信を読んで学会参加してくれた方もいらっしゃいます！興味のある方は、ご連絡をお待ちしております★

7月●日 18時～ 脳神経外科 長坂昌平先生のクリニカル・カンファレンス

7月●日 18時～ 血液腫瘍グループセミナー

★クリニカルカンファレンスとセミナーはZoom参加出来ます。参加してみたい方は、守田(h-rita@med.uoeh-u.ac.jp)までご連絡ください。

～7・8月開催予定の学会～

7月19日-20日 第49回日本小児皮膚科学会(栃木・ライトキューブ宇都宮)

○小松 静野先生 伊藤 琢磨先生

8月9日-10日 第53回西日本小児アレルギー研究会(JR博多シティ 10階 大会議室)

○村川沙織、川村卓

～医局員からのメッセージ～

医師 8 年目（小児科医 6 年目）の高橋です。専門は新生児科を目指しています。
この通信を読んでくださっている学生さんや研修医の先生、小児科医になりたての先生には、成功体験を積むことの大切さについて共有させていただけますと幸いです。

まず、私の経歴を記載します。

2018 年に産医大を卒業。

初期研修 1-2 年 関門医療センター（山口県下関市にある野戦病院でした。）

3 年目 産業医大 4-6 月：4B 病棟 B 班、7-12 月：NICU、1-3 月：4B 病棟 A 班

4 年目 4-5 月：産業医実習、6-9 月：産医大 NICU、10-3 月：小倉医療センター

5 年目 4-9 月：小倉医療センター、10-12 月：産医大 NICU、1-3 月：産業医実習

6 年目 健愛記念病院

7-8 年目 産医大 NICU

こうして経歴を振り返ると、比較的 NICU 勤務が多かったのだなとしみじみと思います。

初めて NICU で従事させていただいた時は、知らないことばかりで毎日がパニックでした。急性期管理についていけず、手技も失敗続きで NICU に対して苦手意識が強かったように思います。4 年目の人事異動発表時、医局長の先生から「君は小倉医療センター。あそこは NICU があるし、九大医局の病院だけど、高橋ならなんとかいけるでしょ。」と言われ決定しました。はい！よろこんで！とは言ったものの、九大の先生の中にこんな高橋が紛れ込むと、どうなるのだろう、、、と不安でいっぱいでした。さらに小倉医療センター勤務中に流行性角結膜炎で出勤停止になり、病欠明けでいきなり小倉 NICU がスタートしました。しばらく後遺症で目のピントが合わず、とにかく点滴確保に難渋しました。もう NICU は限界だなと思っていましたが、ある夜 700g の早産児が出生し、上級医と一緒に処置をする機会をいただきました。なぜかこの時は人生で初めて挿管、点滴などの全ての手技がうまくいき、翌日のカンファレンスでとても褒められたことを今でも思い出します。私が単純なのか、それともお調子者だからなのか、、、気がつけば NICU が楽しいかも！？と考える自分がいて、苦手意識はいつの間にか払拭されていました。

現在、産業医大 NICU では管病棟医長の下、日々新しいことに挑戦させていただいています。時には失敗もありますが、それ以上にチャレンジして成功体験を積むことができ、毎日を本当に楽しく充実して過ごさせていただいています。

ぜひ、みなさまにも、たった一度、それが偶然であっても成功することで、この分野が楽しいかも！？と考える出会いや出来事があることを願います。

小児科通信に関してご意見や感想があれば桑村
(maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp) または守田
(h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～